建設機械産業の現状と今後の予測について

1. はじめに

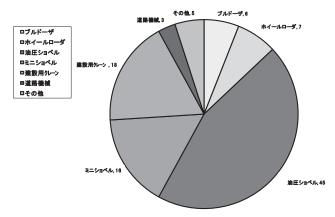
当業界は、100年に一度と言われる世界同時不況となった 2009年度から一転、2010年度には V 字回復した。2011年度も内需は震災復興の需要、外需は新興国、資源開発国向けの需要を中心に好調に推移した。2012年度は、内需は震災復興需要等で継続的に良かったものの、外需は世界的な景況の悪化から減少に転じた。2013年は震災復興の本格化、排ガス規制継続生産猶予期間終了前の旧規制機の需要増で再び 2011年度並みに回復した。2014年は国内の一部機種に反動減が見られたものの、輸出が好調に推移し、2年連続で増加した。

2. 建設機械産業の現状

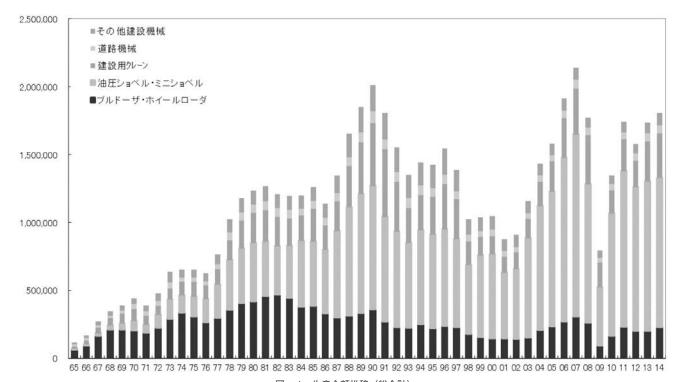
経済産業省の機械動態統計から建設機械の生産金額の推移を見ていきたい(図-1参照)。

2012 年度の総計は、1 兆 5,747 億円で前年比約 10%減少し、2005 年度と同水準となった。2009 年度は、総計が 8,000 億円を下回り、 30 数年前の生産金額と同水準まで落ち込んだが、2010 年度、2011 年度と、そこから大きく回復した。2012 年度は、アジアを中心とした世界的な景気の悪化から一時的に減少に転じたものの、2013年度は、主力機械を中心に国内向けが大きく増加し、再び2011年度水準まで回復した。2014年度は、輸出を中心に続伸した。

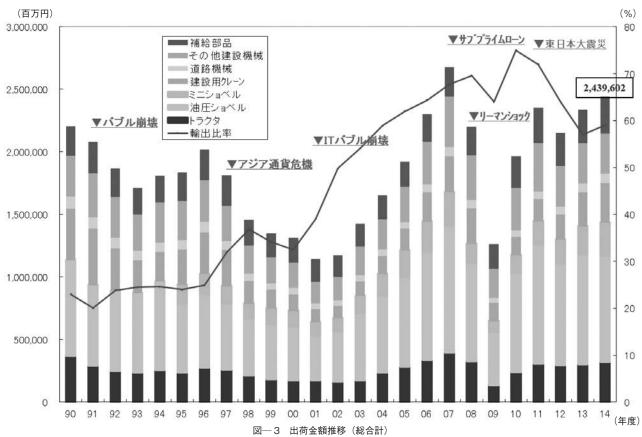
機種別の詳細は図―2の通り。



総額 1 兆 8,067 億円 図-2 機種別生産金額構成比 出典:経済産業省 機械動態統計



図— 1 生産金額推移(総合計) 出典:経済産業省 機械動態統計



※ 10 機種(油圧ショベル, ミニショベル, トラクタ, 建設用クレーン, 道路機械, コンクリート機械, トンネル機械, 基礎機械, 油圧ブレーカ圧砕機, その他建設機械, 補給部品)の出荷金額ベース 出典:日本建設機械工業会統計

次に (一社) 日本建設機械工業会 (以下,当工業会とする)の自 主統計である出荷金額統計で建設機械産業の現状を見ていきたい。

当工業会設立の1990年度から統計を開始した(図-3参照)。

2008年度のリーマン・ブラザーズ破綻を契機とした世界的な景気低迷により、内外需とも大幅に減少し、2009年度は、前年比43%の減少となった。

しかし、2010年に入ると旺盛な海外需要により、国内出荷は前年比14%増加、輸出が84%増加した。2011年度は、震災復興の需要等で国内出荷は同34%増加、輸出は同17%増加した。2012年度は、震災復興の需要等の継続により国内出荷は同18%増加したものの、アジアを中心とした景気の悪化から、輸出は同19%減少した。2013年度は、震災復興の本格化や排ガス規制継続生産猶予期間の終了前の旧規制機の需要増などにより、2011年度水準まで戻った。2014年度は、国内で一部機種に反動減が見られたものの、輸出が緩やかに回復し、続伸した。

輸出比率は2010年に、最高の75%を記録した(国内輸出比率は、 当工業会が統計を取り始めた1990年度と真逆となった)ものの、 2011年度は72%、2012年度は64%、2013年度は57%と減少して きている。これは上記の通り、震災復興や排ガス旧規制機の需要増 により、国内に機械が多く出荷されたためである。しかし、2014 年度は国内で前年の反動減があり、輸出が伸びたことから59%と なった。

機種別出荷金額構成比は、代表的建設機械である油圧ショベルと ミニショベルで52%、これに主力機械である建設用クレーンとト ラクタを足すと80%を超えてきている(図—4参照)。

また、輸出先では、不動産価格の下落や金融引き締め等の影響を受けている中国の比率が大きく下がっている。北米市場の需要が非常に好調で37%、欧州市場が大きく回復し19%となっており、この2地域で半分以上を占めている(図一5参照)。

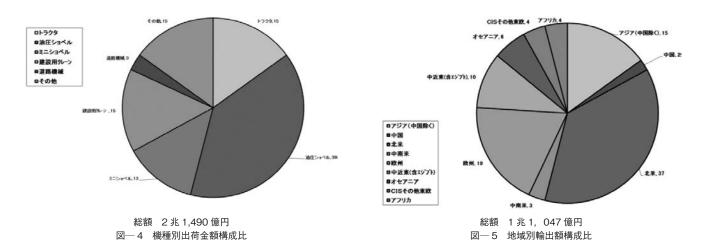
尚, 年度別の新車輸出状況は, 別添図―6を参照のこと。

3. 今後の建設機械産業の展望

当工業会は 2015 年 8 月末に建設機械産業の 2015 年度~ 2016 年度の補給部品を除いた建設機械本体ベースでの需要予測結果を発表した(表-1 参照)。

2015 年度の国内出荷は、上期の安定した官民の建設投資や震災復興による需要、エンジン定格出力 D1 クラスの 2011 年次排ガス規制の生産猶予終了に伴う旧規制機の駆け込み需要等により多数機種の増加が予測される一方、油圧ショベルに一昨年からの駆け込み需要の反動減の継続が想定され、上期計では 4,054 億円(前年同期比 1%増加)、下期計では 4,548 億円(同 4%減少)、トータルでは 8,602

|統 計



※ 10 機種(油圧ショベル、ミニショベル、トラクタ、建設用クレーン、道路機械、コンクリート機械、トンネル機械、基礎機械、油圧ブレーカ圧砕機、その他建設機械、補給部品)の出荷金額ベース 出典:日本建設機械工業会統計

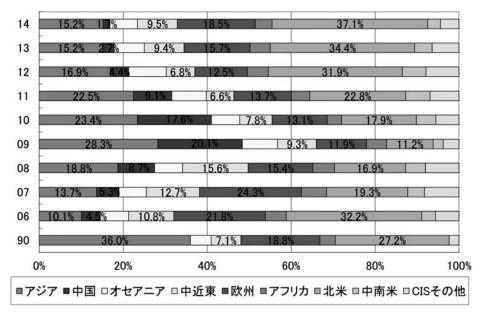


図-6 新車輸出の推移

億円(前年度比2%減少)となり,2年連続で減少すると予測した(9月までの上期の実績ベースで見てみると、同5%増加となっている)。

2015 年度の輸出は、最大の輸出先である北米向けの輸出は堅調に推移するものの、資源開発国向け、アジア、中国向けの需要が減少すると予測し、上期計では、5,978 億円(同3%減少)、下期計では 6,601 億円(同±0)、トータルでは1兆2,579 億円(同1%減少)と予測した(9月までの上半期の実績ベースで見てみると、同8%減少となっている)。

この結果,2015年度の国内輸出をあわせた総合計では、前年度 比1%減少の2兆1,181億円で3年ぶりの減少と予測した(9月ま での上期の実績で見てみると、同3%減少となっている)。 2016 年度の国内出荷は、引き続き官民の建設投資や震災復興による需要が継続すると予測される一方、小型エンジンを積んだ一部機種で反動減が予想され、上期計では4,014億円(同1%減少)、下期計では4,522億円(同1%減少)と予測した。この結果、2016年度合計では、8,536億円(同1%減少)となり、3年連続で減少すると予測した。

2016 年度の輸出は、北米向けが堅調に推移、アジア向けの需要も回復すると予想され、上期計では 6,149 億円 (同 3% 増加)、下期計では 6,872 億円 (同 4% 増加) と予測した。その結果、2016 年度合計では、1 兆 3,021 億円 (同 4% 増加) と予測した。

この結果,2016年度の国内輸出をあわせた総合計では,同2%増加の2兆1,557億円となり,再び増加すると予測した(2年振りの

表一1 建設機械需要予測

2015 年度予測

上段:金額 百万円

下段:対前年同期比指数 %

	上期見込み			下期予測			年度予測		
	国 内	輸出	合 計	国 内	輸出	合 計	国 内	輸出	合 計
トラクタ	46,200	96,000	142,200	71,500	103,400	174,900	117,700	199,400	317,100
	119	90	98	97	98	98	105	94	98
油圧ショベル	119,900	244,600	364,500	122,900	309,800	432,700	242,800	554,400	797,200
	85	94	91	84	104	97	84	99	94
ミニショベル	54,100	87,700	141,800	50,200	86,300	136,500	104,300	174,000	278,300
	114	111	112	92	101	97	102	106	104
建設用クレーン	95,700	61,200	156,900	108,300	67,900	176,200	204,000	129,100	333,100
	110	100	106	107	99	104	108	100	105
道路機械	19,000	18,400	37,400	20,300	15,400	35,700	39,300	33,800	73,100
	109	101	105	92	101	96	99	101	100
コンクリート機械	14,200	900	15,100	16,400	800	17,200	30,600	1,700	32,300
	106	99	105	106	99	106	106	98	106
トンネル機械	1,000	5,900	6,900	5,000	3,400	8,400	6,000	9,300	15,300
	109	106	105	282	122	186	221	111	138
基礎機械	15,100	1,600	16,700	17,200	1,400	18,600	32,300	3,000	35,300
	99	98	99	101	99	101	100	99	100
油圧ブレーカ	9,600	4,400	14,000	10,500	4,500	15,000	20,100	8,900	29,000
油圧圧砕機	111	106	110	107	103	106	109	105	108
その他建設機械	30,600	77,100	107,700	32,500	67,200	99,700	63,100	144,300	207,400
	103	100	101	98	87	90	100	94	95
合 計	405,400	597,800	1,003,200	454,800	660,100	1,114,900	860,200	1,257,900	2,118,100
	101	97	99	96	100	98	98	99	99

2016 年度予測

上段:金額 百万円 下段:対前年同期比指数 %

							<u> </u>	对則年问别	几指数 %
	上期予測			下期予測			年度予測		
	国 内	輸出	合 計	国 内	輸出	合 計	国 内	輸出	合 計
トラクタ	42,000	95,000	137,000	67,900	102,400	170,300	109,900	197,400	307,300
	91	99	96	95	99	97	93	99	97
油圧ショベル	124,700	264,200	388,900	129,000	334,600	463,600	253,700	598,800	852,500
	104	108	107	105	108	107	104	108	107
ミニショベル	48,100	89,500	137,600	48,700	90,600	139,300	96,800	180,100	276,900
	89	102	97	97	105	102	93	104	99
建設用クレーン	95,700	62,400	158,100	104,000	70,600	174,600	199,700	133,000	332,700
	100	102	101	96	104	99	98	103	100
道路機械	17,700	18,000	35,700	19,900	15,700	35,600	37,600	33,700	71,300
	93	98	95	98	102	100	96	100	98
コンクリート機械	14,800	900	15,700	16,700	800	17,500	31,500	1,700	33,200
	104	104	104	102	104	102	103	100	103
トンネル機械	2,800	7,000	9,800	5,500	4,000	9,500	8,300	11,000	19,300
	280	119	142	109	119	113	138	118	126
基礎機械	15,100	1,600	16,700	16,500	1,400	17,900	31,600	3,000	34,600
	100	98	100	96	98	96	98	100	98
油圧ブレーカ	10,200	4,600	14,800	11,200	4,600	15,800	21,400	9,200	30,600
油圧圧砕機	106	104	106	107	103	105	106	103	106
その他建設機械	30,300	71,700	102,000	32,800	62,500	95,300	63,100	134,200	197,300
	99	93	95	101	93	96	100	93	95
合 計	401,400	614,900	1,016,300	452,200	687,200	1,139,400	853,600	1,302,100	2,155,700
	99	103	101	99	104	102	99	104	102

| 統 | 計



図―7 機種別中古車輸出台数推移 データ出典:財務省貿易統計

増加)。

ここ数年の輸出シフトへの動きから、先述の通り、2010年度では輸出比率が75%を超えた。しかし、数年前から機械が国内に還流し、輸出比率は50%台となっていた。昨年度より国内は反動減、輸出は緩やかに回復しており、今年度以降、輸出比率は再び60%を超えてくると思われる。

国内需要との相関関係のある中古車輸出については、2013 年度の実績で、主要 6 機種 (油圧ショベル、ミニショベル、ホイールローダ、クローラトラクタ (ブルドーザ含む)、クローラクレーン、ラフテレーンクレーン) で、5万台以上が輸出された (ピーク時の2007 年度は約 9 万 5,000 台、図一7参照)。

2年連続で増加となったが、為替の影響もあると思われる。

今後も国内の需要を図る上で、中古車輸出台数の推移は重要な資料であるので、継続して注視していきたい。



[筆者紹介] 内田 直之(うちだ なおゆき) (一社) 日本建設機械工業会 業務部次長